（本號（四）頁）　（明治三十八年十月三日　郵便信書認可）　明治二十八年十月三日　第四千四百十號　（定價金二錢五厘）

時事新報

明治廿八年十月三日　舊暦乙未八月十五日　（癸未）　木曜日
日出午後五時三十八分　入午前五時二十二分
月出午後四時五十六分　入午前四時四十一分
満潮午後五時二十四分
（西暦一千八百九十五年）　二百七十六日　年末まで八十九日

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報

政黨の消長

歳に春夏秋冬の循環あり政黨に盛衰消長の勢あり西洋にても日本にても敢て異なる所なく尋常の事態として見る可きものなれば其盛を見て誇るに足らず其衰に遇ふて憂ふるに足らざるは猶は春花秋月の美を愛して而かも其永からざるを悟るものゝ如し然れども此自然の成行以外に自から人力以て大勢を左右するみとなきにあらず例へば責任内閣を以て國是とする英國の如きにありては政黨の掛引運動最も大切にして其巧拙如何に依りて在朝黨は曾に其政府を失ひ黨勢を墜すのみならず容易に挽回の策さへ立たざるみとあり在野黨も亦然り一旦その策を誤るときは如何に政府を攻撃すればとて何等の効果なく返て天に向て唾して自から其面を汚すの失敗なきにあらず故に彼の國に於て在野黨の在朝黨に對するや常に政界の中心を爲す可き時事問題の運操取捨を慎み引満自重敢て容易に發せざる其忍耐は之を傍觀して驚く可きもの多し蓋し屬々發して屢々失敗するは自から其黨勢を殺ぐの媒介にみるべれば勝算の疑はしきものは豫じめ避けて動かざる其代はりに一朝必勝の見込ある問題に逢ふときは全力を傾けて開戦を宣告し論攻舌撃の秘術を盡して毫も假借せず遂に反對政府の顚覆を見るに至らざれば止まざるの常なり今春のみとなりと雖ゆ英國保守黨のサー ヘンリー ゼームスが一意專心ロースベリー内閣を倒すに急にして攻撃問題の選擇を誤りしより其失敗の結果として一時却て當時の内閣に勢力を増したるの感ありしかど爾來保守黨は暫く論鋒を收めて時勢を窺ひ一二箇月以前に至りて再擧を謀り意外の違より政黨内閣の弱點に付入りて首尾能く奇功を奏したるみと好き手腕なれ事竟保守黨が前の敗擧失敗に懲りて後を慎み能く人心の歸趨を察して問題の取捨を決し其間の緩急宜しきを得たるが故なり之を要するに政黨の掛引は兵に異ならず動かざるみと泰山の如くにして動けば則ち疾風の草を拂ふが如くなる可し時事問題の緩急重緩急を計らず天下人心の向背を察せずして漫に運動を試み恰も事の成敗を度外視して猶り自から無勇を慰るが如きは政治家の本色に非ず我議會の開期も近きに在り民間の政黨は政府攻撃の材料として何等の問題を利用するや其運操の當否は黨勢の消長に關するみと大なるのみならず亦以て黨員の智愚を卜するに足る可し我黨の刮目して見んと欲する所のものなり

雅報

○ルイ パスター氏逝く　昨日の電報欄に譯載せしロイター電報は微菌學の開祖、理學者の北辰泰斗とも稱す可きルイ パスターの訃を報ぜりチンダル（英國理學者）ローメーンズ（同上）テーヌ（佛國文學者）ヘルムホルツ（獨逸理學者）の死を云ひ近くはハックスレーの訃音に接したるに今又あの凶報を耳にす苟も學事の進歩に利害を感ずる者誰か痛歎せざらんやルイ パスターは千八百二十二年十二月二十七日佛國ジュラー州ドールに生る同四十年巴里大學校に入り學業を卒うてセサンン學校の特別學士となり同四十三年エコール ノルマールの生徒に擧げられて同四十七年ドクトルの稱を許され翌四十八年にはストラスブルグ理學研究所の物理學博士に任ぜられたり千八百五十四年の末にパスターはリーユ理學研究所に新設されし監督となり同五十七年巴里へ歸りエコール ノルマールの理學指揮（サイアンチフック デレクション）を勤めたり千八百六十三年、エコール デー ボーザー（美術學校）の地質學、物理學及化學の博士に任ぜられ巴里學會の會員に當撰したり千八百五十六年、倫敦の學士會院はパスターへランフォード賞牌を贈り同五十三年八月十二日パスターはレヨオン オヴ オノル（千八百二年ナポレオン ボナパルテの創設せし名譽隊の勲章）を授りたり同六十三年レヨオン オヴ オノルの士官となり同六十八年其司令長官となれり千八百六十年、倫敦學士會院の外國會員五十人の一人に撰ばれ同六十一年、化學に關する著書數卷の功勞を賞する爲めにとてヨエッカー賞牌を得たり千八百六十三年、發酵微菌論の大著述を爲し同七十四年、國立學會はパスター先生の種々の功勞殊に發酵に關する研究を賞賛する爲めにとて終身年金一萬二千法を給したり先生は千八百七十八年十月廿四日レヨオン オヴ オノルの大士官に擧げられ同八十二年四月廿七日、有名なる佛國學林の會員となれり又同年に技術會は發酵と酒の保存と蠶及び家畜に發酵病毒を蔓延せしむるとに關せし先生の研究に酬ゐん爲めアルベルト勲章を贈りたり尚は此外に恐水病、虎列刺等に向て形態理學本領の一部たる微菌學を推進めたる功勞、實に偉大なる人佛國にはパスター協會ありルイ パスターの死去は眞に斯の道は申すに及ばず世界文明の爲めにも深く悲む可き次第なり

○比公の失望　獨逸ハムブルヘル ニヒリヒテン新聞を見るに次の如き報道あり云く曩にハムブルグ コーレスポンデント新聞が比公の身體次第に衰弱し病勢甚だ危しと記せしみとありしをストラスバルグ ポスト新聞は之を以て其實を得たるものに非ずとし公の健康現角に常ならざるは幾分か病氣の爲めもある可けれど尚は一層大切なる原因を尋ぬるに彼のハムブルヘル ニヒリヒテンが憤激に由來するものなりと云ひしみを誠に事の實際を穿ち得たる言ならんと評したりなれども是れにては未だ足らざるの憾あるが故に一歩を進めて更に精はしく公の不快は今日獨逸界の形勢に不滿足の點のみ多く不平の餘りに出でたるものなりと添加し袋に初めて公の心中を窺ふを得るなる可しと信ず云々右の報道に付き倫敦タイムスは批評して云く以上記事のみにて以前宰相の失望せる原因を能に知り難けれど公の機關新聞なるハムブルヘル ニヒリヒテンが此報道を揚げしと同日の社説に於て論ぜし所に依て推測すれば稍々其端緒を知るを得可し即ち近來獨逸の英露二國に對する外交政略常に公の所見に背戻するを爲め不平に堪へ兼ね終に失望して一層病勢を危殆ならしめしに加へて公が年來の宿願たる社會黨を排斥するの法律を今尚は發布せざるみと復其心に不安を感ぜしむるに至りし一原因なる可しと

○佛國とプルサス、ローレーン　或る巴里新聞は往年普佛戰爭の際獨逸に割讓せしアルサス、ローレーンの人民が今日獨佛兩國に對して如何なる感情を抱けるやを知らんとし同地の有名なる人々の所見を問ひ之を蒐集せしに該地の人民は長く獨逸の支配を受けんみとを希望し再び佛國の領土となるを好まざる樣子明白にして獨逸政府は頻に其民心を收めんと欲し多分の金を費して公共事業を起し只管人民の便利を進めんとしつゝあれば干戈の力に訴ふるの外到底之を取り戻すの望なしとの返答多數なりしと尤もサンポエフ氏のみは同地の人民は尚は佛國を慕ふと主張せしと云ひしよし

○英米快艇競走の模樣　前號の電報欄内に屢々記載せしと英國快艇ヴァルキリーと米國のデフェンダーとの競走は去月七日を第一回とし十日、十二日を都合三回之を行ひたり今少しく其模樣を記さんに第一回目に於ける初めの間はヴァルキリーの方勝を制するが如く見へしも勝敗線に至り終に敵艇の勝となり又第二回はデフェンダーに聊か損所ありてヴァルキリーの勝と一度は決せしが審判委員會に於て再び米國快艇の勝に歸したり又第三回には英艇勝敗線に至らざる前に航競爭に就き英米兩國は勿論其他の國々の人民も頻に注意し當時の新聞は互に先を爭つて其形況を記し特に第二回の競爭にヴァルキリー勝ちしとの電報到着するや倫敦中は恰も鼎の沸くが如く又グラスゴー府に於ても非常の騒なりし又當時の米國新聞紙は熾に此事を書き立て自國快艇の輕快なるを稱揚して措かざりしと云ふ

○瑞芳砂金局の開始　臺灣基隆附近には數箇所に砂金産出地あるより未だ同嶋の支那政府に屬せし頃は基隆の東方五六里を距る山村にて曩に近衛師團の上陸地より前進せし際村落戰ありたる瑞芳と云へる地に砂金總局なるものを設け採金者には鑑札料を徴收して鑑札を渡し其他一切採金に關する取締りをなし來りたるも我領地となりし後は我總督府も亂民鎮撫に忙はしかりし爲め採金なども自然の成行に任せ拋擲し置きしより敗兵匪徒の類盛に入込み殆んど無頼の徒の巣窟とも謂ふべき有樣となりたるを以て總督府にても今は默過する能はずして去月二十一日より瑞芳の元砂金總局跡へ砂金局を設置し採金者には是迄通り鑑札料を徴收して鑑札を與へ以て砂金其他に關する採掘上の取締りをなさしめ別に同地に一箇中隊を派遣し附近の鎮撫に任せしめ居るよし

○石炭低落を免かれず　石炭は近年爲換相場の低落に連れて輸出高の増したると内地交通業及び工業の増加と共に消費高を増加したるとの二因よりして價格を高め來りしも今や御用船の解雇さるゝもの積々増加し來りたるに是迄船舶欠乏の爲め高き運賃を拂ひて石炭屋も今は船主の競爭よりして安く運送し得るの傾ひきを生じたるもの多きを加へ（わ）なり故に今後御用船の價格を維持するに難し

○埃及の電氣鐵道　有名なる高塔ビラ氏設せんとの計畫あり又ユラル鐵道（鎖を以て）に顧出たるものあり

○肥筑鐵道の收入　肥筑鐵道は計畫既に人より佐賀縣鹿路は佐賀縣松浦郡縣に入り怡土郡福江、怡土郡周船寺、飼等の諸町村を經場に接線するもの三井忠嶽の諸氏等七名あり餘は福岡

○番但鐵道の　番但鐵道の同期總會を開く由なる至る各鐵道の收入

○各鐵道の收入　至る各鐵道の收入は左の如

九州	二〇一七	二五二	六九六
關西	一五一	一八	九四七
山陽	二五二	一四六	
宮崎	六九六		
大阪	九四七		
毛馬			
東海道線及同支線	一三六		
直江津線	一八		
青森弘前間	一四六		
合計			

又官設鐵道の同期收入總算は左の如

客車收

○石油の競爭　米國の米油にして横濱の米油商會サミュル商會雙方共東京は勿論の相場は漸次下向圓九十六七錢に下

○工業藥品製　に振起せんとするに大坂にはアルカは日本會社會社わ京には王子に御料需用に應ずるに足起し資本三十五萬に製造所を設け硫に從事する者にて

○東京市會　て曩に本紙上に記議決する筆なり同しと

○大宮公園の　色を探るに屈竟の草の小徑を埋めて園内幽邃なれば畫松樓と近接の所に著て一泊接けに